

平成 23 年 2 月 18 日 (平成 22 年度 第 4 号)

地球っ子



札幌国際理解教育研究会 会報

会長 白石 邦彦 (札幌市立清田小学校 校長)

事務局長 森 雅彦 (札幌市立緑丘小学校 教頭)

事務局 札幌市立緑丘小学校内

第3回 学習会～「すぐに役立つ外国語活動学習会」 報告



12月18日(土)札幌市立みどり小学校において(財)日本英語検定協会との共催のもと、第3回学習会を行いました。今回は3部に分かれ、第1部は札幌国際理解研究会研究部の二ツ山先生(札幌市立澄川小学校)と佐々木先生(札幌市立大倉山小学校)による、研究部作成の活動案集を活用しての模擬授業、第2部は関西大学初等部教諭、梅本龍多先生による講演、第3部は「デジタルコンテンツを活用した効果的な活動」や「パソコンを使ったドリル学習、リスニング力の測定」などについて研修しました。

◇ 第1部は札幌国際理解研究会研究部のお二人の先生による模擬授業のレクチュアでした。お二人とも先だって出版された“活動案集”を使い、スマートボードなどのICTを利用したすぐに使える活動を紹介してくださいました。

前半は二ツ山先生による模擬授業でした。“日本語を多く使った”二ツ山先生の和やかなトークで、参加した先生たちも終始楽しく“Introduction Game”や“Key word Game”のアクティビティに参加することができました。

後半は佐々木先生による「英語ノート2」についての模擬授業でした。佐々木先生は“英語を多く使う”授業を紹介してくださいました。先生が普段授業でしている「ピッタンコカンゲーム」など楽しい活動を教えていただきました。



二ツ山先生も佐々木先生も外国語活動の授業にすぐに使えるワークシートや教材についても紹介してください、参加者にとってはよいお土産となりました。子どもたちの意欲づけに有効な方法や、子どもたちが楽しく授業参加でき、教師側も授業作りに役立つワークシートで大変参考になりました。

(右の写真は、外国語活動パスポートと授業で使えるワークシートです。)

◇ 第2部は、たくさんの本を執筆されている関西大学初等部教諭、梅本龍多氏による「小学校外国語活動の充実を図る指導と工夫のあり方」というテーマの講演でした。

講演の中で梅本先生が「担任の先生が作る教材は、『子どものことをよく知っている』わけだから何より有効である」と、強くおっしゃっていたのが印象的でした。例えば、コミュニケーションが苦手な子供が教室にいた場合、その子にフォーカスして教材を作ることがなにより授業に生きることを、あらためて強く感じました。

外国語活動では発達段階に合わせて、低学年なら歌や絵本、中学年なら遊び(ゲーム)、高学年の児童には興味を示す物というように、教材作りをしていくといいことも学びました。

具体的には、Smart board やパソコンを使った教材を見せていただきました。電子黒板を使った教材を使用する場合は、「子供を前に向かせて」指導することが大切であり、視覚教材を作成するに当たっては「一度に情報を見せない」、「見せ方、考えさせ方を工夫すること」が大切であるという、教材を作るときの留意点、教材作りの秘密を伝授していただきました。

電子教材のほかにも、透明シートに材料を貼り付け重ねていく英語ノート1の「パフェ作り」の教材などは、すぐ取り入れられそうで興味深いものでした。楽しいお話と、興味深いレクチュアで、あっという間に時間が過ぎ、次の機会には是非もっと教えていただきたいです。

文責 平本洋康(広報部 札幌市立桑園小学校)

